

DV を利用した発表会の実践と指導

幡羅小学校 金澤正明

1 はじめに

大人・子どもにかかわらず、自分の思いや考え方を相手に的確に伝えることは、現代生活において必要不可欠な能力である。しかし、担任をしているクラスの子どもの実生活を観察すると、「わかりません」「考え中です」で済ませてしまったり、黙ってその場を逃げ切るような様子が多く見られた。その原因は様々であろうが、特に学校生活の中で考えると、問われている質問に対して、瞬時に答えなければならない、また、子どもにとっては大きな自己決定を迫られるような場面が多い。しかし、相手に自分の考えなどを伝えることが得意でない子どもでも、時間をしっかり与え、応答、発表、発言することをあらかじめメモさせたりすると、かなり思うような発表できるようである。いつでも応答に時間をかけられるわけではないが、このような能力は多くの経験と訓練でその能力は向上していくと考え、質問に対する答え方や、自分の思いを相手に伝える方法を、折に触れて指導してきた。

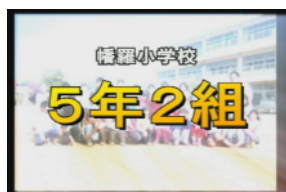
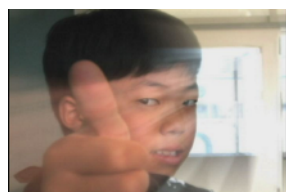
2 今回の実践

3学期の終わりに5年生の思い出発表会を行うことになり、子どもたちにアンケートを採ったところ、「リアルタイムでの発表より、あらかじめ台本を作って、ビデオに録画した様子を発表にしたい」という意見が多くを占めた。発表方法や内容を自由に考えさせて、企画が始まった。

3 背景

当初、子どもたちはコンピュータといえば「インターネット」「ゲーム」「お絵かき」程度のことしか頭になかった。今回のデジタル発表会(?)にたどり着くまでに、子どもたちには「コンピュータを使うとこんなことができるよ」という例を多く見せてきた。たとえば…

- ・ 行事などで撮りためたビデオを「クラスのイメージビデオ」に編集・加工して鑑賞していたこと。
- ・ 社会の学習で情報発信やニュースができるまで の単元で、情報発信の学習を進めていたこと。
- ・ 行事や日常生活で撮影した写真を、そのまま掲示するのではなく一部加工してクラスに掲示したこと。 (写真:クラスのイメージビデオより)



4 教師側のねらいや留意点

- ・ 自分が伝えたいことをどう表現したらより相手に伝えられるかを考えさせる。
- ・ 本来であれば、発表に使う絵や写真を子どもたちがコンピュータで作成したほうがよいのだが、時間的に無理なので、生の写真や手描きの絵を使用する。
- ・ リアルタイムではできない表現方法などを考えさせ、発表に生かす。

5 具体的な学習の流れ

- ・ 1年間の思い出に残った出来事を作文や絵で発表しよう

(1) 同じアイデアの人とグループを作り、内容の大まかな部分話し合い、決定する。

人数は 720*480 の制限があるので、3人を上限にした。

(アイデアの中には単に絵や写真を見せて説明をするだけでなく、その画像に関するエピソードや自分の思いや考えを入れるように指導した)

(2) 絵を描いたり写真(すでに撮影した物のサンプルから抽出する)を選び、自分たちの思いをよりよく伝えるにはどのような構成がよいかを考え、併せて台本となる作文を書く。

(3) できあがった台本を使い、ビデオ撮りをする。

(オリジナルのタイトルを使いたいとか、ブルーバックを使って、内容に合わせて写真を背景にしたいというグループもあった)



6 事後指導

今回のビデオは2月末の参観日で上映する予定である。視聴後には、伝えたいことが伝わったのか、話し方や声の大きさ目線など、気がついたことをメモさせて、お互いに批評する時間を作りたい。



使用ソフト・ハード・備考

Ulead 社 フォトインパクト Canopus 社 Edius 素材辞典 音辞典
Dv-Storm Vx-2100 など

Avi ファイルは高画質 Mpeg で圧縮 4Gb 程度にし、DVD 化する。

発表当日はプロジェクタで投影するか、プラズマでの上映を予定している。